

令和6年度教育実践優秀表彰の概要

1 目的 学校教育において、積極的な取り組みを行い、顕著な成果をあげている教員を適切に評価するとともに、その成果を普及することにより、教員の資質の向上や意欲の高揚を図り、学校の活性化に資する。

2 本表彰制度の開始年度 平成15年度

3 表彰者数 教育実践優秀教員 6名（令和5年度 5名）
教育実践奨励賞 4名（令和5年度 6名）

4 応募数 25名

内訳	○校種別	小 14名	中 8名	高・特 3名
	○男女別	男 16名	女 9名	
	○年齢別	20代 2名	30代 14名	
		40代 4名	50代 4名	
		60代 1名		
	○分野別	学習指導等 16名	校務分掌等 6名	
		学校体育等 0名	部活動等 0名	
		特別支援教育等 0名	その他 3名	

<参考> 過年度の応募数

15年度：31名	16年度：24名	17年度：25名
18年度：38名	19年度：42名	20年度：48名
21年度：61名	22年度：59名	23年度：60名
24年度：52名	25年度：22名	26年度：29名
27年度：43名	28年度：39名	29年度：34名
30年度：34名	元年度：26名	2年度：30名
3年度：20名	4年度：21名	5年度：24名

5 選考等日程

12月13日	募集通知（前年度）
6月7日	募集締切（25名の応募）
7月29日	第1回選考委員会（委員の任命、1次選考：10名選出）
9月2日	第2回選考委員会（2次選考：プレゼンテーション実施） （最終選考：6名選出）
9月17日	定例教育委員会（被表彰者の決定）

6 表彰式 令和6年11月1日（金）

7 表彰の効果等

教育実践優秀教員に選ばれた者は、給与上の優遇措置や中央研修等への参加に優先的に推薦されるほか、各種研修会の講師を務めている。

また、教育実践優秀に選ばれたレポートについては、レポート集として、県内の小・中・県立学校に送付し、義務教育課と教育センターのホームページ上にも掲載して、普及を図っている。

令和6年度 教育実践優秀表彰について

○教育実践優秀教員

学 校 名	実践のテーマ	実 践 の 概 要 等
高松市立中央小学校 教諭 篠原 弘樹 <small>しのはら ひろき</small>	児童が理想の自分に近づくことを後押しするために教師ができること 一子どもに寄り添い、伴走し続ける道徳科の授業を通してー	年度当初に児童が「理想の自分」として設定した目標を達成させるために、道徳教材を選定するなどして指導の重点化を図ったり、個々の児童の想いに寄り添いながら繰り返し面談したりすることなどを通して、児童が自己実現を図ることを目指した実践である。道徳の授業では児童が設定した目標と関連の深い道徳の授業を重点的に行うことで自分ごととして深く考えさせたり、友だち等との対話を中心とした学び方と自己内対話を重視した学び方の2つから学習方法を選択させたりすることで、道徳性の育成に大きな成果をあげている。
丸亀市立城西小学校 教諭 高塚 仁志 <small>たかつか ひとし</small>	音楽科の授業を生活とつなぐためにポピュラー音楽を取り入れた授業実践 ～学習内容と対応させた効果的な取り入れ方～	音楽科の歌唱や鑑賞等の授業において、教科書教材と児童にとってなじみの深いポピュラー音楽とを比較したり関連付けたりして考える活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指した実践である。音楽科の学習で得た学びをポピュラー音楽にも当てはめて考えようとする視点や、ポピュラー音楽を授業の導入で扱うことで教科書教材への興味・関心を高めたりする視点の両面をうまく組み合わせて指導を行うことで、音楽科の授業と生活をつなげ、より豊かな生活を送ることに大きな成果をあげている。
三豊市立詫間小学校 教諭 白川 宏美 <small>しらかわ ひろみ</small>	1年間の植物との関わりを通して、主体的で個別最適な授業を目指す試み ーICTを活用した探究・話し合い、学習方法・学習形態の選択ー	生活科の植物の授業において、児童の素朴な疑問や思いを大切にするとともに、児童自らが学習方法や学習形態を選択して学習に取り組むことを通して主体的・対話的で深い学びの実現を目指した実践である。児童のもっている疑問や概念を踏まえた教師の意図的な発問は、児童の探究心をうまく引き出し、高い目的意識をもった学習につながっている。ワークシートの活用かタブレット PC の活用かで学習方法を選択させたり、個・ペア・グループから学習形態を選択させたりといった個別最適な学びは児童の主体性の育成に大きな成果をあげている。
高松市立龍雲中学校 教諭 久保 孝彰 <small>くぼ たかあき</small>	中学校英語科における4技能の統合的な言語活動の工夫 「読むこと」を「話すこと」につなげるリテリング活動による実践研究	英語科の授業において、生徒が教科書の英文を読み、その内容を英語で伝えるリテリング活動を通して、「読むこと」や「話すこと」といったコミュニケーション能力の育成を目指した実践である。生徒の実態に即して段階的にリテリング活動の内容や活動時間、教師の支援内容を工夫することで身に付けたい力の育成とともに生徒の学習意欲の向上を図っている。生徒のアンケートやALTによる継続的な学習評価から、生徒の読む力や話す力の向上が見て取れ、それが学習意欲の向上につながるといった好循環を生み、大きな成果をあげている。

<p>三豊市立高瀬中学校</p> <p>教諭 <small>しらかわ けんた</small> 白川 健太</p>	<p>全員参加の国語科授業を目指す取組について</p> <p>～文学的な文章における漫画教材との全文比較を通して～</p>	<p>教科書の文学作品を味わう授業において、初読の段階で文章量が多いことに抵抗感を示したり、内容理解が難しいと感じたりする生徒の実態を踏まえ、同じタイトルの漫画教材を活用することで生徒の興味・関心を高めながら文学作品の読みを深めることを目指した実践である。身近な漫画教材を読むことで文学作品の内容理解につなげるとともに、それぞれの描写の違いを見つける活動を通して主人公の人物像に迫ったり、筆者の意図を多面的に考えたりと主体的に文学作品を味わうことに大きな成果をあげている。</p>
<p>香川県立小豆島中央高等学校</p> <p>教諭 <small>いけもと けん しろ</small> 池本 健志朗</p>	<p>学校の特色を活用した個に応じた教育プログラムの実現</p> <p>～地域資源を活用し、新たな価値を生み出す生徒を育てる～</p>	<p>総合的な探究の時間における地域資源を活用した教育プログラム「樺風（かいふう）」を開発し、個に応じた教育と課題解決能力育成を目指した教育実践である。生徒が町役場や島内企業と連携して地域の課題に取り組んだり、学習アプリを活用して校外との情報交換の場を設けたり、さらに深い関心をもった生徒を対象にした課外活動を行うことにより、生徒の視野を社会へと広げ、生徒の自己有用感を高めるなど大きな成果をあげている。</p>

○教育実践奨励賞

学校名	職名	氏名	実践のテーマ
高松市立木太南小学校	教諭	<small>すぎうら こうた</small> 杉浦 康太	達成感を味わい、シビックプライドを醸成する ～子どもの主体的な姿を生む、「知る」「描く」「動く」「つなぐ」を意識した単元構成より～
多度津町立白方小学校	教諭	<small>よしはら あきひろ</small> 吉原 彬宏	自走して学び続け、地域に誇りを持つ子どもの育成 ～地域の魅力を発信するガイドブック作成に向けて～
香川県立高松東高等学校	教諭	<small>にしざわ さとこ</small> 西澤 智子	探究学習における STEAM 教育の Arts を活かした創造的問題解決能力の育成 ～主体的で対話的で深い学びの実現を目指したプロジェクト型学習の実践～
香川県立農業経営高等学校	教諭	<small>たき あきら</small> 滝 彰	課題研究から取り組む農業教育について ～生徒の自ら学ぶ意識を育てる養豚部門における課題研究の実践～